

プログラムの概要

泌尿器科の特徴:

- 対象臓器:** 尿路(腎、尿管、膀胱)、男性生殖器(前立腺など)、内分泌臓器(副腎、副甲状腺)の疾患。
対象疾患: 悪性腫瘍(腎臓、尿路、性器)、腎不全治療(腎移植、透析)、下部尿路機能障害、先天性腎尿路疾患、性機能障害。
対象患者層: 高齢者、女性、小児のすべてが対象で、需要は極めて多いです。大学病院では、前立腺癌、腎癌、膀胱癌、腎盂尿管癌などの悪性腫瘍の外科治療が中心ですが、関連病院では尿路結石、前立腺肥大症などの良性疾患が多くなります。
外科治療: 開腹手術もありますが、低侵襲手術・内視鏡手術が中心です。
da Vinciを用いたロボット支援腹腔鏡下手術も実施しています。
自己完結型診療科: 診断、治療からフォローまで泌尿器科で行います。
外来診療: 様々な検査、小手術もあります。
手術以外の領域: 薬物療法(排尿障害、感染症、癌化学療法、性機能障害)、人工(血液)透析、腎移植における免疫抑制療法。
将来の開業: 泌尿器科専門医の約30%は開業医です。高齢患者における前立腺疾患、尿失禁などの需要は増大し、将来性が非常に高いです。



医局内のドライボックスを用いた内視鏡手術実習。学生実習で、指導を行います。



シミュレータ室内に設置しているdaVinciトレーニング用シミュレータ。24時間使用可能です。初期研修医対象の講習も行っています。

プログラムの特徴: 以下のすべてをローテートします。

1. 低侵襲外科治療グループ
2. 腎不全・腎移植グループ
3. 女性泌尿器科・排尿障害・小児泌尿器科グループ
4. 悪性腫瘍グループ

教育システムの特徴:

1. 1年目からの臨床技能教育
2. 最短期間での専門医資格取得;泌尿器科、腹腔鏡下手術、透析医療等

アピールポイント

臨床においては、一般泌尿器科疾患はもちろん、下部尿路機能障害、腎不全治療、女性泌尿器科、小児泌尿器科、泌尿器悪性腫瘍、内分泌代謝疾患、腎移植、性機能障害などの各種専門分野すべてを学べます。動物を用いた腹腔鏡下手術研修を行い、さらに最先端外科治療であるda Vinci手術チームに参加できます。研究においては国際学会、国内学会への参加・発表を積極的に推奨しています。

2024年 集合写真



2024年3月 Advancement in Urology



志村寛史医師がアメリカ泌尿器科学会と日本泌尿器科学会の合同研究会で優秀ポスター賞を占受賞しました。若手医師も積極的に国際学会・国内学会に参加し、発表を行っています。



新規導入されたda Vinci Xi



2013年4月に手術支援ロボットda Vinciを導入し、泌尿器科では根治的前立腺摘除術、腎部分切除術、腎全摘除術、根治的膀胱摘除術、腎盂形成術、仙骨壁固定術、副腎摘除術を年間150件ほど実施しています。若手医師も、積極的にロボット支援手術の研修を行っています。

具体的な研修内容

専攻医1年目は大学病院での研修、2年目から関連病院での研修を行います。山梨県内外にある学外関連病院でも、腹腔鏡下手術、ロボット支援手術や前立腺レーザー手術の研修ができます。後期研修1-2年目は経尿道的内視鏡手術、開腹による小切開手術、血液透析用シャント手術、3年目は前立腺全摘除術を目標とします。4年目終了時には泌尿器科学会専門医取得が可能です。大学院入学は、随時可能です。